

あの日から1年、3月11日

2011年3月11日、今まであった日常は一瞬にして奪われました。あの日から1年がたちました。町中のがれきは片付けられ、何もなくなった土地には新たに仮設店舗

などが建ち始め、再び町に活気が戻りつつあります。

2012年3月11日、町の各所で震災で犠牲になられた方々への追悼の祈りがささげられていました。



灯籠に思いを込めて

3月10日、船越地区浦の浜で「弥生灯火会」が行われました。これは、震災直後「ともしび」が戻ってくる度に多くの方が復旧への確かな手ごたえと希望を感じたことにちなみ、置き灯籠や流し灯籠といった「ともしび」により、復興への決意を再確認しようといわれたものです。催しには、100人ももの町民が参加。町内の保育園児らが描いた置き灯籠は温かい光を放ち、参加者らは流し灯籠にそれぞれの思いを込めて海に浮かべていました。

「鎮魂と希望の鐘」除幕式

3月11日、山田ロータリークラブ（阿部幸栄会長）が建立した「鎮魂と希望の鐘」の除幕式が旧町立図書館跡地（通称御蔵山）で行われました。この鐘は、震災による犠牲者のご冥福をお祈りするとともに、復興への願いが込められています。また、JR陸中山田駅の屋上にあった大時計も展示されました。阿部会長は「この鐘は復興の証。たくさんの方がこの地に訪れてほしい」と述べました。



祈りをささげ、復興を固く誓う

3月11日に町中央公民館大ホールで「東日本大震災・大津波山田町犠牲者一周年追悼式」が行われました。遺族代表の言葉で鈴木文さん（中央町・51）は「大震災から一年たった今も、大切な人を失った悲しみと心の傷が消えることは決してない。でも、前に向かって強く歩まなければいけない。一日一日を大切に生きていく」と述べました。

町長室から

先月中旬以降に、出張が相次ぎました。17日には北海道池田町において「災害時相互応援協定」の締結式を行いました。本町の「陸中山田十勝ワイン」友の会の活動が縁となり、池田町から大震災に対する職員の派遣など積極的な支援活動を受けたことが契機となりました。町を挙げての歓迎に感激しました。23日は、私が理事を務める東京の水産土木建設技術センターの理事会出席です。センターからは大津波によって被災した町営漁港の災害復旧に関わる設計積算業務に対して格安の費用で協力いただいたので、その謝辞を申し上げます。27日は流失した田の浜の漁村センターに代わる集会所建設資金を援助していただくことになったモエヘネシー・ルイヴィトン・ジャパンとの確認書署名式でした。このように国内外の多くの皆様からのご支援を受け、復興が進んでいきます。

山田町長 沼崎 喜一